

深く目を向け、耳を傾けることがまず第一歩であると思われます。

このシンポジウムに出席して改めてわかったこともありました。自殺に至った人が未遂に終わった場合、その後180日以内に再び自殺を試みる人が多いと言う統計が出ています。ということは、自殺未遂者を見つけ出し、徹底的にフォローしていくことが具体的に死者を減らすための方法ではないかと気づきました。しかし、根本は「生きやすい社会」の実現を目指すことであり、

私もその通りだと思います。

その後、県との連携のため、中屋敷県議にお願いし、同じ会派から一般質問に立つ小野県議が9月の県議会の一般質問においてこの件について質問してくださいました。それによると本年2月に県において自殺対策連絡協議会を設置し、調査研究・対策の検討を進めているとのこと。また、11月にはいのちの電話相談員全国研修会を本県を会場として開催し、これを契機に民間団体との連携も進めるとのことです。

## 行政視察報告

### 「ヘルスアップ尼崎戦略事業」

文教福祉常任委員会視察

委員会で行なった視察で特に注目すべきものをご報告します。（兵庫県尼崎市）

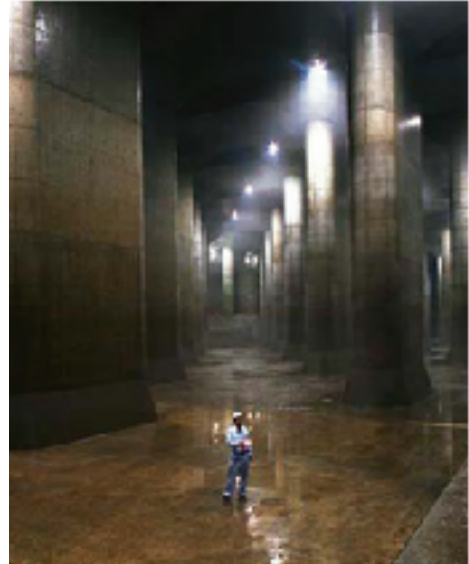
兵庫県内90ある自治体の平均寿命を調べたところ、尼崎市は男性が88位女性が85位で、若い世代の死亡率は男性が県内トップ女性は6位という深刻な状態でした。そこでさらに詳細に調べていったところ、働き盛りの世代がなくなる原因の約2割が生活習慣病だったことがわかりました。生活習慣病とは、虚血性心疾患・糖尿病・大動脈瘤解離・高血圧性疾患・脳梗塞などです。これら生活習慣病は努力によって予防することができます。さらに国民健康保険の医療費のこれらの病気の治療に対する負担額は4億円以上にのぼることもわかり、市の財政の観点でも生活習慣病を防ぐことが求められることとなります。そこで、尼崎市では国保加入の20～40歳対象に健康診断を始めました。これらの病気は早期発見をすることで簡単に直すことができます。

尼崎市は健診および保健指導をして市民に健康になっていただくことを徹底的に進めています。

健康は幸せでもあります。私たち鴻巣市民も健康に留意し、健康診断を積極的に受けましょう。

### 「首都圏外郭放水路」

鴻巣会視察



中に立ってみると写真で見るよりも遥かに大きいのを実感する

埼玉県東部地区、中川・綾瀬川流域を長年襲ってきた浸水被害の対策のために作られた人工の地下の川と貯水タンク、そして調圧水槽（写真）です。この地区の5本の河川の地下を横断する形をつなぎ、あふれる水を集めて江戸川に排出する放水路で特に最後の調圧水槽は古代の神殿を思わせる巨大な柱が立つ圧巻の空間でした。埼玉県民のくらしを守る重要な施設です。鴻巣市は浸水被害は少ない方ですが、こうして見えないところで私たちの生命や財産が守られています。